

道の駅「あいろーど厚田」展示 北前船題材

ジオラマパンフレットで詳しく

市が作成 交易の歴史や制作秘話

【石狩】市は、27日に開業する「道の駅石狩 あいろーど厚田（厚田区）」の2階で展示する、北前船とニシン漁を題材にしたジオラマのパンフレットを7千部作成した。市内に住むジオラマの制作者が、北前船の歴史や制作過程を説明している。

（折田智之）

道の駅は地域の歴史や文化情報の発信を担うことからジオラマを設けた。厚田区の押琴湾を舞台に、北前船「長栄丸」が着き、ニシンを積む様子を表現。人形作家八田美津さん(75)が人形、石狩市郷土研究会事務局長の石黒隆一さん(62)が船体、妻の主婦美香子さん(59)が小物などを手がけ、当時の様子を再現した。

パンフレットは両面カラーA3判の三つ折り。北前船の歴史や運んだ品物を紹介し、厚田から運ばれた練粉は、綿花の肥料として瀬戸内地方などに運ば

れたと説明している。厚田にも鹿兒島の黒糖や尾道（広島県）の酢などが届いたという。

ジオラマの制作過程にも触れた。表情豊かな85体の人形は古着などで作ったことや、北前船にはケヤキやヒノキなど実物と同じ木材を使ったことなどを紹介した。石黒隆一さんは「地域の歴史を知り、北前船到着を喜ぶ人々の喜びを追体験してほしい」と話している。

パンフレットは、19日から4回に分けて行われる、市民向けの道の駅モニターツアーでも早速使われる予定だ。



パンフレットを手にする（左から）八田美津さん、石黒美香子さん、石黒隆一さん